

HYOGO INTERNATIONAL ASSOCIATION

カムヒア

COME HIA

2019.10
VOL.

98

友好提携50周年を記念して
兵庫県民交流団が
ロシア・ハバロフスク
地方を訪問!



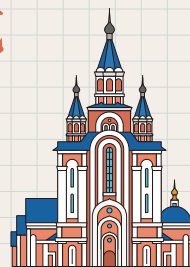
ハバロフスク・ウスペンスキー教会にて

発行・問い合わせ：(公財)兵庫県国際交流協会

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 国際健康開発センタービル2階 TEL 078-230-3260 URL <http://www.hyogo-ip.or.jp/>
Hyogo International Association International Health Development Center, 2nd Floor, 1-5-1 Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo 651-0073 JAPAN



ハバロフスク地方で現地住民と草の根交流 ロシア極東のさまざまな魅力にも触れる



 **ロシア**
RUSSIA

ハバロフスク地方

ロシア連邦を構成する地方の一つで、日本の約2倍の面積に134万人が暮らす。行政中心地であるハバロフスクは、中国東北地方との境界にもなっているアムール川畔に開かれた、極東ロシアの中心都市。



K H A B A R O V S K



共同声明調印式

兵庫県とロシア・ハバロフスク地方との友好提携50周年を記念して、令和元年8月17日から22日までの6日間、兵庫県民交流団34人が同地方を訪問しました。ハバロフスクでの友好提携50周年記念式典・レセプションに参加したほか、日本語学習者と交流したり、郊外のダーチャ※を訪れて現地の人たちと触れ合ったり。両県・地方のさらなる交流の深まりを感じるとともに、ロシア極東のさまざまな魅力を発見できた旅になりました。

※ダーチャ…ロシア語で「農園」の意味



井戸敏三 兵庫県知事(右から2人目)を囲んで



記念レセプション

調印式・記念レセプションに参加

8月20日、県民交流団を代表して団長・副団長などが立会人として共同声明調印式に参加。両県・地方の今後の幅広い分野での交流に関する調印を見届けました。続く記念レセプションには全団員が出席し、ハバロフスク地方側の出席者との交流を深めました。



日本語を学ぶ 人たちと交流

ハバロフスク日本センターや大学で日本語を学ぶロシア人学生などと交流。日本語を学ぶきっかけ等について直接お話を伺うことができました。



日本語学習者との交流

ダーチャで現地住民と昼食作り

ハバロフスク市郊外のダーチャを訪問し、現地の人たちと昼食作りを行い、出来上がったメニューを一緒にいただきました。団員一人一人が心を通い合わせる草の根交流を実現することができました。



現地住民との交流



ダーチャで
昼食作り

Pick UP!

兵庫県私費外国人留学生奨学金

の受給者証交付式を実施



高井芳朗HIA理事長(左)から張さんに受給者証を交付

HIAは、県内の大学等に在学する私費外国人留学生の生活の安定を図り学習活動を支援するため、1988年度から奨学金を支給しており、受給者は延べ5千人を超えます。

7月13日、JICA関西で受給者証交付式を開催。本年度の受給決定者110人が出席しました。神戸大学で学ぶ張林姝(チョウ・リンシュ)さんは、留学生を代表して「今後とも奨学金を生かし、学問研究に一層励みます。また、微力ながらも自分の研究成果を活用し、兵庫県の国際交流のお役に立てれば至極の喜びに存じます」と感謝の気持ちを述べました。

今後、奨学金を受給した外国人留学生が自身の勉学に励むとともに、県と母国との交流を担う人材となることを期待しています。

新しい

国際交流員を


紹介します

カイ・シムズさん
(オーストラリア)

オウ シュウセイ
王 秋声さん
(中国)

兵庫県の
国際交流員
全員集合!




ユアン・レイさん 
| 米国 | ミシガン州 |

ハロー!皆さん、こんにちは!ユアン・レイです。アメリカのミシガン州から来ました。大学で日本文化・日本語と、アジア研究を勉強し、さまざまな国を経験してチャレンジしたかったので1年間日本へ留学しました。その経験を通して、世界中のいろいろな優しい人と出会うことができ、日本文化についても、もっと深く理解できました。

私は、日本の便利な生活や食べ物が恋しくなって日本に戻ることになり、兵庫県に配属となりました。昔、神戸を旅行した時、南京町と海が好きになりました。私の母国、アメリカの文化を皆さんと共有したいのと同時に、皆さんの日本の文化も知りたいです。



ジョ ヒーウン
趙 熙恩さん 
| 韓国 | 釜山市 |

2019年4月から兵庫県の国際交流員として勤務している趙熙恩(ジョ・ヒーウン)と申します。

韓国の釜山(プサン)広域市から参りました。釜山は港町で、昔から世界各地と交流がありましたが、特に日本との交流が盛んでした。釜山と似て、早い時期から外国と交流をしてきた兵庫県に来ることができ、大変うれしく思います。異人館や旧居留地等レトロな雰囲気神戸以外にも、摂津、但馬、丹波、播磨、淡路など特色ある兵庫県各地の魅力を楽しんでいきたいです!

「多文化共生」を考える 研修会2019を開催しました

8月21日から30日までに4回、多文化共生の魅力や課題について考える研修会を開催しました。

兵庫県には、現在155カ国約10.8万人の外国人県民が住んでおり、さまざまな場面で接する機会が増えています。文化や言語、生活習慣の違いを認め合い、互いに尊重し合う多文化共生社会の実現が必要であることを改めて認識しました。



多数の参加者が熱心に耳を傾けました

第1回

総論

8/21

会場：国際健康開発センター

「メディアが報じない
在日外国人労働者の実態」
出井 康博氏
(ジャーナリスト)

増加する外国人労働者の実態について、ジャーナリストの目から見た課題や解決方法等について、お話を聞きました。

「日本育ちのアフリカ青年が
見た不思議の国ニッポン」
星野 ルネ氏
(漫画家、タレント)

4歳で来日した講師の幼少期の体験談や、生活の中で感じた不思議の国ニッポンについて、お話を聞きました。



質疑応答の時間も設けられました

第3回

移住する人々の状況

8/28

会場：国際健康開発センター

「イギリスの若者女性ムスリムについて
—『信仰』を通じた社会統合」
安達 智史氏
(近畿大学総合社会学部准教授)

「超」多様化社会イギリスでの若者女性ムスリムの意識や教育、人権問題について、お話を聞きました。

「日本の難民受け入れと未来」
岡本 富美子氏
(公益財団法人笹川平和財団)

グローバルな難民の状況や保護の潮流、日本における取り組みや今後の展望等について考えました。

第2回

外国にルーツを持つ子どもの教育

8/23

会場：神戸市立海外移住と文化の交流センター

「日本語を母語としない子どもの
教科学習に必要なこと」
志村 ゆかり氏
(関西学院大学日本語教育センター講師)

生活で使う日本語と学習教科で使う日本語の違いにとまどう外国人の児童生徒の現状・問題点と、彼らへのサポートの方法等について考えました。

「日本語指導が必要な児童生徒の
ニーズとボランティアの役割」
坂口 有芸氏
(研究者)

若手研究者によるニューカマーの外国人児童生徒の現状・課題と彼らが求める支援策について、お話を聞きました。

「母語センターについて」
松原 マリナ氏
(NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBK理事長)

8月にオープンしたCBK母語センター(ポルトガル語)の見学会を行いました。

第4回

入管難民法改正と外国人労働者

8/30

会場：ふたば国際プラザ

「岐阜県を中心とした中部地方の
実習生支援活動について」
甄 凱氏
(岐阜一般労働組合)

外国人技能実習生の労働現場と問題点について報告を受けた後、救援策等について考えました。

「日本の移民政策の課題」
高谷 幸氏
(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)

日本の外国人労働者の受け入れ拡大と移民政策の問題点等について、お話を聞きました。

「ひょうご多文化共生総合相談
センターについて」
福島 泰正氏
(兵庫県外国人県民インフォメーションセンター所長)

外国人県民相談窓口である「ひょうご多文化共生総合相談センター」の活動と生活相談の傾向等について説明を受けました。

母語センターがオープンしました

県内に住む外国にルーツのある児童生徒の母語教育をサポートするとともに、母国の文化や歴史、社会情報の発信ステーションの役割を担う母語センターがオープンしました。同センターには母語の学習教材をはじめ、母国および母語の本やガイドブック、DVD、タブレット端末等の視聴覚設備が整っており、母国の文化に触れることができます。利用は無料。主として就学前の子どもや小学生向けですが、事前申し込みをすれば、どなたでも利用できます。ぜひ、ご活用ください。



オープニング除幕式(CBK母語センター)

CBK母語センター

ポルトガル語

火～日曜 10:00～17:00

[運営団体]

NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBK
TEL 078-222-5350

[アクセス]

神戸市中央区山本通3-19-8
神戸市立海外移住と文化の交流センター2階
JR・阪神「元町」駅東口から北へ徒歩約15分

ひょうごラテンコミュニティ・たかとり母語センター

スペイン語

月～金曜 10:00～17:00
第2・4土曜 11:00～13:00

[運営団体]

ひょうごラテンコミュニティ
TEL 078-739-0633

[アクセス]

神戸市長田区海運町3-3-8
JR神戸線「鷹取」駅から東へ徒歩約5分
※ひょうごラテンコミュニティ・たかとり母語センターとベトナム夢KOBÉ・たかとり母語センターは同じ場所です

ベトナム夢KOBÉ・たかとり母語センター

ベトナム語

火・木曜 10:00～17:00
土・日曜 9:00～12:00

[運営団体]

ベトナム夢KOBÉ
TEL 078-736-2987

※第5土曜は休館

※利用の場合は、事前に運営団体あて申し込みをしてください

ひょうご国際交流団体連絡協議会 活動紹介



総会で審議

草の根国際功労賞受賞者 (敬称略・順不同)

	受賞者名	推薦団体名
個人	大岩 浩治	公益財団法人加古川市国際交流協会
	橋田 久子	稲美町国際交流協会
	矢持 ヴェロニカ 美智子	丹波篠山市国際姉妹都市委員会
団体	ひかみ日本語コミュニケーションクラブ	丹波市国際交流協会
	NPO法人実用日本語教育推進協会 (THANK's)	公益財団法人兵庫県国際交流協会

令和元年度総会を開催

草の根国際功労賞表彰式と講演会も

6月5日、インドクラブ神戸で「令和元年度ひょうご国際交流団体連絡協議会総会」を開催。高井芳朗会長(HIA理事長)のあいさつで始まり、審議の後には、「草の根国際功労賞」受賞者の表彰式を実施しました。

その後の講演会では、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会代表理事の土井佳彦氏が「改正入管法の施行に伴う地域での取り組みについて」をテーマに登壇。今後の対応について考える良い機会となりました。



土井氏による講演



恒例のオックスブリッジ英語サマーキャンプ 8人の学生がさまざまな形で県民と交流

ウェルカムパーティーは大盛り上がり

今年はオックスフォード大学およびケンブリッジ大学から4人ずつ、計8人の学生を迎えました。7月18日には神戸倶楽部でウェルカムパーティーを開催。学生を受け入れる県内の大学・高校、国際交流協会、ホストファミリーなどの関係者約120人が参加し、オックスブリッジ学生との歓談やダンスを楽しみました。

オックスブリッジ学生は8月18日までの1カ月間、県内の各団体や地域で英会話教室やイベントなど、さまざまな交流事業に参加しました。



オックスフォード大学&ケンブリッジ大学の8人

受け入れ校の
生徒たちと一緒に



参加者にダンスを教える様子



スコットランドのケリーダンスを披露

ケンブリッジ大学のアーチットさんは HIAで交流イベント

HIAでは、7月22日から26日までケンブリッジ大学法学部1回生のアーチット・シャーマーさんを受け入れました。アーチットさんと共に、英会話教室や子ども向けイベントに加え、イギリスの文化紹介や参加者が英語で議論する「英語でDiscussion!」を実施。参加者からは「楽しい授業であっという間に時間が過ぎた」「英語を使う機会が持て、今後の学習意欲が上がった」などの感想が寄せられ、英語を通じてアーチットさんとの交流を大いに楽しんだようです。



アーチット・
シャーマーさん



「英語でDiscussion!」には
県立鳴尾高校ALTの
テニール・リチャーズさん(奥)と
国際交流員カイ・シムズさんも参加



国によって異なる英語について議論

子ども向けイベント
「英語であそぼう!」の様子



テラスで
おしゃべりを
楽しむ人たち

「カフェ ノワゼット」、ご存じですか？

今年5月にパリ事務所に赴任。これまで何度かパリに来たことはあるのですが、今回住んでみて初めて知ったことをご紹介します。

パリ事務所
森下 絵理香



パリの人たちはカフェでのおしゃべりが大好き。仕事前の一杯やちょっとした息抜き、食後の一杯などテラス席で楽しむ人たちを見掛けます。そんなパリでは「Café」と注文すればエスプレッソが出てきますが、最近知ったのが「Café Noisette(カフェ ノワゼット)」。ノワゼットとはヘーゼルナッツのこと。エスプレッソに牛乳を少し加えたもので、その混ざった色がヘーゼルナッツ色だからこう呼ばれるのだとか。

街中のブラスリー



先日、イタリア出張の時にレストランで食後のエスプレッソを勧められたので、牛乳を入れてほしいとお願いしたところ、「マッキアートね!」と言われ、国が変われば呼び方も変わるという発見をしました。

この「カフェ ノワゼット」、メニューには載っていないことも。でも、どこのお店でも通じます。そして、お店によって出し方もさまざま。牛乳がそのまま入っていたり、フォームミルクだったり、自分で牛乳を入れるスタイルもあります。ぜひパリに来られたら、「カフェ ノワゼット」を試してみてくださいね。

ひょうごの 仲間たち

「未来のために一緒に勉強しよう!」を 合言葉に外国人の子どもと家族の 居場所づくり

夕方の5時、「こんにちは〜!」と元気な小学生たちが次々と教室に入ってきます。NPO法人多文化センター まんまるあかしが開催する日本語・教科学習支援教室「みらいのきょうしつ」です。

理事長を務める久保美和さんは、国際交流関係団体に勤務していた際に聞いた「小さい子どもがいるので日本語教室に通えない」「日本語が分からないので、子どもの宿題を見てあげられない」という外国人のお母さんからの声に応えるため、有志と子ども向けの日本語・学習支援教室を開催することに。ボランティアグループだった組織は、その後2016年にNPO法人化。週に1回だった子ども向けクラス「こどもくらす」は、現在週3回に。お母さん向けクラス「おやくらす」も増設しました。

教室には子どもたちが描いた絵が飾られ、おもちゃもあり、とてもアットホームな雰囲気。優しい笑顔で子どもたちを見守りながら「ただ『話』を聞いてほしいという子もいる。子どもたちが自分で行き帰りができる範囲に居場所が必要」と副理事長の櫻江茂樹さんは話します。「近くに教室がない」と車で遠方から通う小学生もいるそうです。

NPO法人多文化センター まんまるあかし



おやくらす
の様子

みんな一生懸命に
勉強しています

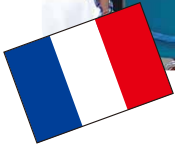
一方、「おやくらす」は未就学児の子どもを連れてくることができるため、大変喜ばれています。お母さん同士子育ての話もでき、ネットワークづくりにも役立っているそうです。

みんなの居場所でもある「みらいのきょうしつ」。これからも、外国にルーツを持つ子どもと家族の未来のために、温かく寄り添い続けます。



NPO法人多文化センターまんまるあかしでは、平日夕方の子ども向けクラスのボランティアを募集しています。

NPO法人多文化センター まんまるあかし
TEL 078-915-8747
Eメール info@manmaru-akashi.com



フランス語で 絵本を楽しもう!



8月22日、ひょうご国際プラザ交流ギャラリーでフランス語による絵本の読み聞かせを行いました。フランス語を担当したのは、フランスのセーヌ・エ・マルヌ県から「ひょうご海外研修員」として来日しているケリーさんとアレクサンドルさん。作中に登場する「ボンジュール、メルシー」などのあいさつを声に出し、参加者と一緒に絵本を楽しみました。また、同じ絵本の日本語版も読み、フランス語との表現の違いなどを見つけました。

読み聞かせの後には、フランス国旗の塗り絵や切り紙で作ったエッフェル塔などをつるすモビール作りにも挑戦。普段聞き慣れないフランス語での読み聞かせでしたが、子どもたちに外国語に触れてもらう良い機会となりました。



モビール作りの様子



モルドバの魅力を 写真と水墨画で紹介

9月4日から25日まで、ひょうご国際プラザ交流ギャラリーで「モルドバ Gallery 写真・水墨画展」を開催。フォトアーティスト、みやこうせい氏や内閣総理大臣賞を受賞した水墨画家、武田有加氏の特別展作品を含めた約50点を通し、魅力あふれるモルドバの自然と伝統文化、生活風景を紹介しました。

9月10日には武田氏を講師に迎え、水墨画を自由に描くワークショップを実施。24日は、日本モルドバ友好協会理事長の沓澤正明氏を講師に迎えたモルドバに関するセミナーが開かれ、いずれも盛況のうちに終了しました。



ワークショップで
水墨画に挑戦

EVENT CALENDAR

2019-2020 HIAイベント カレンダー (予定)	11月	12月	2020年1月	2月	3月
	◎災害時外国人支援セミナー [ギャラリー展示] 韓国伝統文化組紐作品展/ ルワンダの教育パネル展 [プラザ図書展示] 世界のクリスマス	◎子ども日本語教育研修会 ◎第2回食文化交流教室 [ギャラリー展示] にっぽん一大使たちの 視線写真展2019 [プラザ図書展示] 世界のクリスマス	◎地域に根ざした日本語 支援を考える研修会 ◎EUセミナー ◎災害時通訳・ 翻訳ボランティア研修 [ギャラリー展示] 兵庫県ユニセフパネル展示 [プラザ図書展示] 日本の防災	◎サロン・カーニバル [ギャラリー展示] アフリカ絵本展 [プラザ図書展示] アフリカ特集	◎交流の集い [プラザ図書展示] イギリス特集

※イベント内容は変更になる場合がありますので、ホームページで確認してください。

